

末永 恵理 展 「Work in the Forest - 意識の奥の森へ -」

2021.9.3 - 10.11 kaneko art gallery

作家・末永恵理より 「森の中を歩いてきて」

(聞き手より) 本展に合わせて、過去の作品ファイルを拝見させていただきました。時期によってさまざまなシリーズがあり、取り組まれたようなご様子が見られますが、その変遷というのは、どういう背景や流れのもとに在ったのか、少しお聞かせいただけますか。

— 大学時代は旅の記憶の景色のようなものを描いていました。卒業後、長野県に移り、木や景色のスケッチをもとに9年ほど具象で描いた末、外にモチーフを探しに行くことをやめ、日々の作業を決めて描くことにしました。この頃から具象と抽象を行ったり来たりした作業がしばらく続き、6年前くらいからは点描で抽象を描いています。

抽象が始まった13年ぐらい前の最初の試みは「点を打ち、線で結び、色を塗る」でした。その作業を続けている途中、ペットの死をきっかけにモノトーンとなり、そのうち点だけにすることにしました。最初の点描は暗い紺色に白の点だけで描いたシリーズです(宇宙のようにも見える)。次の段階が今現在も続いている色の点描シリーズです。色の点描の初期の頃はひたすら点を打っていましたが、最近少しずつ形のようなものが出て来ています。

(聞き手より) 最初の点描である、白だけの点による宇宙のようなシリーズ、そして現在の「色の点」による今のシリーズ。それらが2014年、2015年と2年続けて行なわれた個展での変化であったことが興味深く感じます。いずれも Gallery Amano(山梨県小淵沢町)での個展です。その辺りの変化なども少し教えていただけますか。

— Gallery Amano の空間はとても綺麗で、ストレートに絵に向かうことができる空間であることも関係しているかもしれません。ギャラリーの白い壁は、絵をごまかしのきかない空間で見せてくれるのでいろんなことがわかって来ます。最初の個展の時に、宇宙のようにも見えることに少し違和感をおぼえました。実際は見たことがないのに知識で知っているものを絵で再現しているような。そんな風に見えるのは少し残念でもあります。それならいっそのこと、具体的に見えるものから離れられるように、抽象に100%シフトするために、色は限定せず、ひたすら色の点を打つことにしました。その結果、やりがいのある世界にやっと入れた感じがして、やっとこれから自分の世界を作る土台に来ることができたような安堵感がありました。

(聞き手より) 最後になりますが、これからの自身の制作について、今の時点で感じている展望のようなものはありますか？

— 点描の世界の霧が晴れていくような、意識の奥に点描で制作しながら入って行って、初めて見ることができる世界のようなものが絵に出て来たらいいなと思っています。

(2021年9月 取材・構成：kaneko art gallery)



末永 恵理 (Eri Suenaga)

東京都出身。東京の美大を卒業後、ほどなく長野県へ移住。2000年より発表を開始。

以後、制作拠点の長野県・隣県の山梨県のギャラリー・美術館等での発表を中心に活動。

2018年にはポーランド Stary Sacz にて滞在制作。

2020年は、同国ワルシャワにて展示とワークショップに参加。

※詳細はHPからご覧いただけます。(https://kaneko-art-gallery.com/EX/EX-2021/ex-20210903.html)